



日研生E-だより 第15号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2021年1月15日

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な拡大により、世界中の人々にとって、2020年は今まで経験したことのない深刻な年になってしまいました。修了生の皆さんとご家族・ご友人はご無事でしょうか?『日研生E-だより15号』をお届けします。前号につづき、今号も「修了生は今」という特別企画の第2弾で、日本や世界中で活躍している日研生修了生からのメッセージを紹介します。そして、言葉の力で、新型コロナウイルス感染症と向き合う世界中の日研生修了生へエールを送りたいと思います。

《2019年度日本語・日本文化研修留学生の修了式》



左から：竹沢先生(担任教員)、澤田先生(修了レポート指導教員)、谷口先生(学類長)、バオくん(日研生・ベトナム)、山口さん(生活チューター)、新山さん(学術チューター)、金先生(副担任教員)

2020年度日研生の出身国は次の通りです。

| 出身国名 | 人数 |
|-------|----|
| ベトナム | 1名 |
| スリランカ | 1名 |
| 韓国 | 1名 |



2020年12月9日
新型コロナウイルス感染症の影響で、来日が延期されていた日研生の皆さんは
関連教職員との初顔合わせ。 →



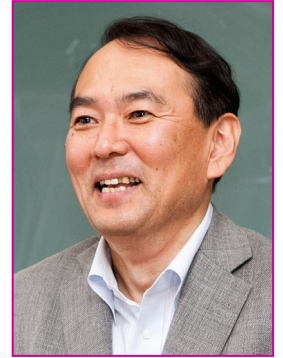
■ 2019年度担任の竹沢幸一先生からメッセージをいただきました！

竹沢幸一先生

昨年度は、日日学類の日研究生プログラムにとっていろいろな点で特別な年でした。

まず一つ目は、日研究生の成果報告書である『異文化との出会い』がなくなったこと。これまで29年間『異文化との出会い』の出版が続いてきたこと自体、素晴らしい実績であり、ここでそれがなくなることは、関わってきたものにとって非常に寂しいものでした。

二つ目は日日学類が受け入れる日研究生数の減少。これまではコンスタントに10数名の日研究生を毎年受け入れてきたのですが、一昨年が4名、そして私が担任だった昨年度がベトナムからのバオ君ただ1人になってしまいました。今年度は3名になりましたが、それでも以前のような世界各地からの学生が交流しながらこのつくばの地で日本について学ぶといったことができなくなったこともとても残念です。世界各地からの学生が多様な観点をもって一つのプログラムのなかで日本について学ぶという日日の日研究生プログラムは、日研究生だけでなく、日日学類の日本人学生にとってとてもよい学習環境を提供してくれていたと思います。



そして三つ目は何といっても新型コロナウイルス感染症。昨年度、日研究生プログラム自体は何とか修了することができましたが、修了レポート発表会、修了式、祝賀会がコロナのために影響を受けました。コロナだけでなく、さまざまな理由によって大学の教育のあり方も大きく変わらざるを得ず、それに伴って日日の日研究生教育も変わっていかなくてはならないことはしかたのないことです。いろいろなどころでも言われていますが、そうした変化をポジティブな方向に転換していくことが求められる時代です。日研究生プログラムでも、Japan Expert プログラムとの共同授業、修了論文のデジタル化、オンラインのリモート授業等が行われるようになりましたが、そんな時代だからこそ、このつくばの地で日研究生として1年間を過ごした皆さんからも、その経験に基づいたいろいろなアイデアを聞かせてもらえれば、うれしいです。



■ 2019年度日研究生に聞きました！

2019年9月に修了した日研究生に次の質問をしたところ、お返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で1年間日研究生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたの現在の様子を知らせてください。

ブイ パオ クアン さん (ベトナム出身、ホーチミン市師範大学在籍) BUI, Bao Quan



1. 日本語、日本文学、日本文化を本格的に学ぶ機会を頂き、自分の考え方も大きく変わりました。日本に着いた時は、新しい環境に戸惑い、分からない時や困る時もありましたが、先生方をはじめ、チューターの方と友達に助けられて、無事に乗り越えることができました。この1年間を通して、新しい知識や新しい友達と出会い、勉強でも生活でも色々な方に支えられており、色々なことを学んできました。後半はコロナのせいであまり出かけられなくなりましたが、私は皆に出会えたことに感謝し、大学で作った思い出の数々をこれから先も大切にしていきたいと思います。

いつか日本に留学することは大学1年生からの夢でした。日本人の親切さ、教育環境の良さ、私が想像した通り素晴らしい国でした。この1年間を通してそれらを体験することができて、

日本がもっと好きになりました。いろいろな国の友達と出会い、お互いの国の異文化も体験できました。一緒に勉強したり、遊びに行ったりして、楽しい日々を過ごすことができたことに、私は嬉しく思っています。特に担任の竹沢先生とチューターの山口さんは優しくしてくださり、ホームシックにはなりません。修了レポートを書いている時も、直接会うことができないなど、大変なこともありましたが、指導教員の澤田先生や学術チューターの新山さんのいつも丁寧で優しいご指導、ご説明のおかげで、無事に修了レポートを完成することができました。喜びや楽しいことはもちろん、苦しみも後悔もありましたが、そうした全ての体験が私を成長させてくれました。1年間という短い時間ながらも、私の中でいつも残っている素晴らしい1年間でした。

2. 新型コロナウイルス感染症の影響で、帰国がだいぶ遅くなりましたが、その間に、この学習環境の良い大学で、毎日、新しい勉強をしたりして精一杯に過ごしていました。また、「日本語トーク2020」というアジアの学生によるオンライン日本語スピーチコンテストも手伝っていました。その傍ら、オンラインにて所属しているホーチミン市師範大学の先生のお手伝いもしていました。コロナの影響から得たコミュニケーションのオンライン化の経験は、決して無駄ではないと思います。




生活チューターの山口航平くんと戦国時代へタイムスリップ



■ 修了生は今

日本や世界中で活躍している2006年度、2012年度、2015年度と2017年度の日研生修了生4名から、メッセージが届きました。筑波大学日研生修了生は、様々な形で日本と本国、そして世界との架け橋になっていますよ！そして、このような時だからこそ、ぜひ言葉の力で、世界中の日研生修了生を励ますことができたらと願っています。

 **ミソチコ グリゴリー (MISOCHKO, Grigory) さん (ロシア出身、当時モスクワ州立大学在籍、2006年度日研生 / 担任: 千本秀樹先生、副担任: 石田プリシラ先生)**



私の大切な家族 (2020年8月現在)

皆さん、お元気ですか。2006年度の日研生の Grigory Misochko (ミソチコグリゴリー) と申します。出身はロシアです。10年以上も前のことですが、筑波大学で日研生として過ごした年月は、今から振り返ってみれば、人生の中で最も幸せな1年間だったかもしれません。

初めての一人暮らしの緊張感と喜び、日本文化の「常識」の妥当性について考えさせられた担任の千本秀樹先生の講義、日研生・チューターの仲間と一緒にいった千葉県への研修旅行や筑波山登山、夜を明かして留学生や日本人学生と交わった雑談は、十数年たった今も忘れられません。「留学」というのは、留学先の国を知ること以上に、他の留学生の出身国である世界

各国について学ぶ絶好のチャンスだと信じています。同期の日研生のメンバーだけで、私以外にウズベキスタン、韓国、サウジアラビア、スロベニア、中国、ベトナム、モンゴルの7か国の出身者がいたほか、他にも数えられないほどの国の学生と一緒に授業を受けたり、学内外の様々なイベントを通して交流したりして、自分の視野を広げることができました。もちろん、私の出身都市のモスクワも他ならぬ国際都市ですが、マジョリティ側のロシア人として、しかも普段の日常生活のなかで異文化と触れ合う機会はありません。しかし、留学してみれば、留学生同士は皆、同じ留学生というマイノリティの立場からの結び付きが強く、留學生活の毎日も「日常」とはかけ離れた、いわば冒険のようなものです。限られた奨学金を使って、たった数か月の間に中国と韓国、そして日本の20以上の都道府県へ旅行したことは、今でも信じられません。

日研生プログラムを修了してから帰国後、母国の大学を卒業しました。その後、日研生の修了論文を指導して下さった嶺井明子先生が所属されていた比較・国際教育学研究室へ国費外国人留学生としてもう一度留学し、博士号を取得するま

での約 10 年間をつくばで過ごすことになりました。2018 年にはモスクワに戻って、現在はモスクワ市立教育大学の日本語学科の准教授として、次世代の学生たちに日本語等を教えています。

思い出してみれば、留学する前から好意を抱いていたモスクワ大学の同期と初めて付き合うようになったのも、ちょうど日研生の頃で(そのとき、彼女は日本の別の大学に留学していた)、紆余曲折を経てその約 7 年後には結婚し、幸せな家庭を築くことができました。息子もつくば生まれで、緑に囲まれたこの立派な学園都市は私にとってかけがえのない存在になりました。

コロナ禍のなかで、世界各国の高等教育は大きな岐路に立たされており、最初の症例のニュースから 1 年以上が経過した今も収束の見通しが立っていません。オンライン授業の普及により、将来的にはこれまでにない規模でのオンライン型の国際教育交流への道が開かれたかもしれません。しかし、それと同時に、この危機は従来の対面式の交流の重要性と価値を自覚するきっかけにもなったと確信しています。だからこそ、今の日研生や世界中の日研生修了生には、今後も母国と日本をつなぐ架け橋のような存在として活躍してほしいし、皆さんの貴重な経験を生かす機会は減るところか、さらに広がっていくと信じています。



2007 年 7 月に念願の富士山登頂。



ロドリゲス ホルヘ (RODRIGUEZ, Jorge) さん (メキシコ出身、当時メキシコ国立自治大学在籍、2012 年度日研生 / 担任:長田友紀先生、副担任:宮本エジソン先生)



2017 年メキシコ国立オペラハウスで三味線を弾きました。

iHola! (オラ! スペイン語では「こんにちは」の意味です。)私はホルヘ・ロドリゲスと申します。メキシコ、タマウリパス州の出身で、2012 年度に日研生として筑波大学で 1 年間勉強しました。日研生プログラムに参加できたおかげで、今の私があるというのは言いすぎではありません。初めて日本に来られたのは、日研生プログラムのおかげでした。昨日の出来事のように覚えているのに、もう 8 年が経ちましたね。当時目覚まし時計のアラームに使っていた曲や、移動中によく聴いていた曲を偶然に聴くと、心が踊り始めるように感じ、無意識に当時の思い出が次から次へと思い浮かんできます。

留学時代を振り返ってみると、筑波大学での勉強や部活のおかげで、楽しい毎日、そして刺激を与えてくれる毎日を過ごしていました。1 年間は思ったより早く終わってしまいました。ただ、1 年間という短い期間でも、研修旅行で綺麗な景色を見たり、宿泊先でみんなと遊んだり、真面目な話をしたりしていたことや、毎日宿舎から大学へ移動しながら、季節の変化を感じたことや、放課後、友人と一緒にあのつくばのうまいつけ麺を食べに行ったこと、そして、部活で茨城県内の様々なところへ演奏しに行ったことなど、心に残る貴重な経験が数えられないぐらいできました。

日研生時代、勉強と共に部活を大切にすると、という習慣が身につきました。所属大学の音楽学部出身の私は、筑波大学の津軽三味線クラブに入門し、勉強と楽器の練習に熱中していました。大学での専門知識以外には、部活を通して先生方と先輩方の教えるを大事にすることや、周りを見て学び行動することは、非常に重要な勉強となりました。

留学を終了してから、母国に戻って大学を卒業した後、国際交流基金のメキシコ事務所で文化・芸術担当として雇われ、憧れの日本芸術家やアーティストに出会ったり、一緒に仕事したりしていました。また、母国でアンサンブルを組んで、日本民謡や津軽三味線の魅力を広めるように尽くしていました。日研生の時代から、日本で仕事をしながら、民謡や三味線の勉強をし続けたいと、ずっと夢を見ていた私は、2018 年に自治体国際化協会の外国青年招致事業 (JET プログラム) に採用され、広島に移住しました。現在、広島県庁の職員として、異文化理解や多文化共生に向けて、母国の文化を広めたり、交流の機会を設けたりしています。そこで、縁があり、所属している三味線の流派が広島にも支部を持ち、今も家元との関係を大事にしなが、三味線の勉強を続けています。

夢は一つ叶えましたが、これから叶えたい夢がまだいくつかできました！みなさんもきっと、叶えたい夢があって、日研生になろうとしたのではないかと思います。柔軟性を持ちながら、自分の夢を忘れないでください。夢が遠くなったように見えても、少し遠回りしたと考えて、絶対諦めないで欲しいです。

今年は誰でも想像できなかつた変則な年でした。しかし、皆さんが、母国にいても、日本にいても、一人ではないと信じて欲しいです。皆さんのことを見守っているご家族やお友達、そして日研生プログラムに携わっている日研の教職員がいます。自分の心の中の太陽でこの時期を乗り越えて、明るい未来を作っていきましょう！¡Animo!（アーニモ！スペイン語では「ガンバレ」の意味です。）



日研生の修了式の祝賀会で、担任の長田先生と同期の日研生のみなさんです。



ロ・ヒョウセン（LYU, Bingxuan）さん（中国出身、当時大連大学在籍、2015年度日研生 / 担任：清登典子先生、副担任：小野正樹先生）



日研生の皆様、お元気ですか。私は呂冰璇（ロ・ヒョウセン）と申します。2015年10月から1年間日研生として筑波大学で留学生生活を過ごしました。日研生プログラムを修了してからすでに4年間が経ちました。時間が経つのはこんなにも早いものか、気づかないうちに大学を卒業し、そして学生から社会人になりました。社会に進出し、特に上海のような大都市で働いていると、ハイペースな生活や熾烈な競争などで疲れてしまいます。この時、私はいつもつづばでの平穏な留学生生活を思い出します。

筑波大学での生活はごく自然なものです。朝、宿舎で起きてから、自転車に乗って1コマ目の授業を受けにいっ…途中で、時には「坂は大変だなあ！」と呟きながら、一日が始まります。そして、2コマ目、3コマ目、転々と各エリアを移動し、重く息をしながら教室へダッシュ！授業が終わってから、中央図書館に行くのも楽しみでした。そこで本の匂いを嗅ぎながら、何の邪魔もなく、静かなひと時を過ごしていました。自然豊かな環境の中で、毎日の勉強、読書、退屈な生活になりやすいかもしれませんが、今振り返ってみると、世の中のざわめきから離れ、先生方のご指導を受け、自分自身との会話もできて、一番有意義な時間でした。

私は現在中国にある日系企業で働いて、日本のIP（Intellectual property、知的財産）作品をゲームにして中国のユーザーに届ける仕事をしています。日研生の修了論文では『「剪灯新話」と日本の翻案小説における女性像』を書いた私がどうしてゲームと結びつか、想像しがたいかもしれませんが、実は私は昔から大のゲームマニアで、日本語の勉強を始めたきっかけもゲームと言っても過言ではありません。

私がゲームを好きな理由もごく簡単で、ゲームは人の心を動かすからです。私はもともと、誰かの支えになれる素敵なゲームを作ることが夢でしたが、忙しい日常に追われている中では、「本当に夢に向かって走っているの？」と迷いもありました。そのとき、私は日研生時代の生活を思い出します。先生方の



春の早朝、追越宿舎から延びる桜の花びらの絨毯を自転車ですり抜け大学へ行っていました。

丁寧なご指導、チューターたちの温かいサポート、そして恵まれている環境の中で、制限を設けずに、色々な知識に飛び込んでいた自分を思い出して、勇気と感動が溢れてきました。

日研生の皆様、自分に制限をかけずにいっぱい勉強して、生活して、目標に向かって走って、何よりも楽しんでいてください。このコロナ禍の中、たくさんの方々や物事が影響され、色々大変ですが、いつか必ず「雨过天晴(雨のち晴れ)」と信じて頑張っていきましょう。

最後に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。



📷 バルボザ タナカ ベアトリス (BARBOSA, Tanaka Beatriz) さん (ブラジル出身、当時サンパウロ大学在籍、2017年度日研究生 / 担任:中込睦子先生、副担任:沼田善子先生)



皆さん、こんにちは。2020年の新型コロナウイルス感染症のため、世界中は結構大変になっていますが、みなさんとご家族・ご友人はご無事でしょうか。私はブラジルのベアトリスと申します。もう2年以上過ぎましたが、2017年の秋から2018年の秋まで日研究生として筑波大学で留学していました。懐かしい気持ちに浸りながら、私が得られた経験と留学後の話を少しシェアしたいと思います。

私は10歳から日本語の勉強を始めて「いつか日本に行きたい!」という夢をずっと持っていました。サンパウロ大学に入学してから日本語を専攻に選びました。ついに4年生の時に日本の文部科学省と筑波大学のおかげでその夢が叶いました。日研究生として過ごした1年間は一生忘れられません。素晴らしい人たちと出会え、新しい道を開き、大きな影響を与えられました。

ブラジルから日本までの旅は30時間も掛かりました。着いたときはもう夜で大雨でした。疲れた私はチューターの館野みなみさんのおかげで一の矢宿舎まで無事に着きました。みなみさんは、一緒に銀行と市役所へ行ってくれたり、授業についての疑問も答えてくれたりして大変お世話になりました。一の矢宿舎の皆さんは優しい人たちばかりで、特に宿舎管理担当の松村和子さんはいつも助けてくださいました。

日本語で修了論文を書くのが最も不安でした。担任の中込睦子先生はいつも笑顔で「大丈夫!頑張ってください!何とかなる!」と言って、心配していた私たちを励ましてくださいました。そして論文指導教員の竹沢幸一先生と論文チューターの竹本理美さんのおかげで、日本語能力を向上させることができ、論文も発表も無事に終わりました。今でも感謝しています。

休みの日に、日本での生活をしっかりと経験できました。日研生の皆さんと一緒に、つくば市をはじめ、水族館や歴史博物館を見学したりして、すごく楽しかったです。それに大学で日本人の友だちもできて、近くにあるつくばキリストの愛教会でも素敵な人たちに出会えました。母国から離れていても、一度も寂しさを感じませんでした。日本のきれいな景色と日本でできた友だちは今でも大切な思い出であって、心の中から決して消えないと思います。

私は、帰国してから大学を卒業して実家に戻りました。今は近所にある日本語学校で教師として働いて、子供たちに日本語と日本文化を教えています。その子供たちもまた私と同じく「いつか日本に行きたい!」と夢を持っています。その子供たちの夢のために、日本で得た経験を活かしながら私が協力できることは最高だと思っています。その他、フリーランスの翻訳や通訳も少ししています。残念ながら、今は、新型コロナウイルス感染症のため、外出を自粛していますが、オンラインでも頑張ってい



同期の日研究生のみなさんです。

ます。

新しく来た日研生の皆さん、筑波大学にいる間に授業で学んだ日本語と日本文化の知識をぜひ様々な場面で活かしてください。それに日本でできた友だちを大事にして、留学生活を楽しんでください。自分の夢は、最後まで諦めずに頑張ってください。



■ 思い出のワンショット

2019年9月26日 2019年度日研生オリエンテーション



2020年1月17日 日研生研修旅行（他プログラムとの合同実施）



2020年9月8日 日研生修了式（竹沢先生と山口さんと記念撮影）





【編集後記】 2021 年 1 月 15 日

2019 年度の日研究生は、コロナ感染拡大で帰国の定期便が運航されないため、暫くつくばに足止めされ、2020 年度の日研究生も、外国人の日本への入国制限で来日が延期され、母国にいながらオンラインにて本学の授業を履修していました。コロナ禍の中で戸惑いはありましたが、本学類の教職員が心を一つにして、これからも日研究生プログラムを実施していきます。

「日研究生 E-だより」も第 15 号になりました。皆さんからのお便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



日本語・日本文化学類長室

nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。